

## 伊勢湾貧酸素情報（第 1 報）

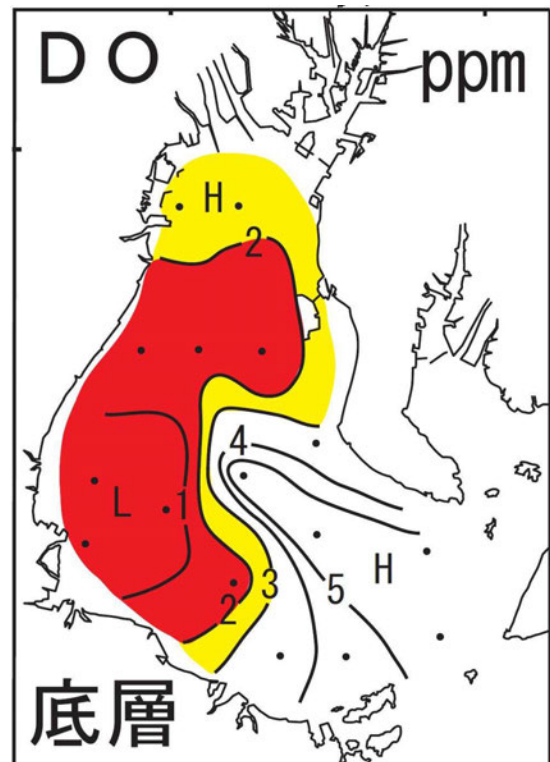
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量の低下が始まり、三重県北中部の沿岸部の広い範囲で 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

### 7 月 6 日の調査結果

7 月 6 日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 23.7～27.7℃，10m で 18.4～20.7℃，底層で 17.3～20.1℃の範囲にあり，表層ではやや高めから高め，10m ではやや低め，底層では平年並みで三重県側ではやや低くなっていた。塩分は表層で 12.16～28.38，10m で 32.17～33.68，底層で 30.98～34.25 の範囲にあり，表層では低め，10m ではやや高めから高め，底層では平年並からやや高めとなっていた。DO（溶存酸素量）は表層で 7.2～12.4ppm，10m で 3.0～6.3ppm，底層で 0.3～5.9ppm の範囲にあり，表層では湾奥部高め，湾口部でやや低め，10m では平年並み，底層では三重県沿岸部から中央部にかけて 2ppm以下の貧酸素水塊が形成されていた。

調査時は湾奥部から三重県沿岸の松阪市沖にかけての表層では珪藻類のスケトネマ コスタータムによる赤潮が発生していた。表層で高温傾向，底層では低温・高塩分傾向にあるため，上下混合が起こりにくく，底層の貧酸素化が進行しやすい状態にあると考えられ，今後，貧酸素水塊の動向を注視する必要がある。



底層貧酸素水塊分布